

⑨ 日本国特許庁 (JP)

⑩ 特許出願公開

## ⑪ 公開特許公報 (A)

昭63-272249

⑫ Int.CI. 1

H 04 M 1/00  
1/02

識別記号

庁内整理番号

M-7608-5K  
D-7608-5K

⑬ 公開 昭和63年(1988)11月9日

審査請求 未請求 発明の数 1 (全2頁)

⑭ 発明の名称 使用者記憶装置付公衆電話機

⑮ 特願 昭62-107077

⑯ 出願 昭62(1987)4月30日

⑰ 発明者 堀米 あや子 神奈川県川崎市中原区下小田中925

⑱ 出願人 堀米 あや子 神奈川県川崎市中原区下小田中925

## 明細書

## 1. 発明の名称

使用者記憶装置付公衆電話機

## 2. 特許請求の範囲

(1) 公衆電話機に使用者が必ず製作する製作部材の方向(たとえばナンバーリングやナンバー金口)から撮影する小型の電子カメラを装着し、上記製作部材の製作によって、使用者を撮影記憶出来るようにしたことを特徴とする公衆電話機。

(2) 公衆電話機で使用者が必ず製作する製作部材の表面に、指紋を認識するセンサーを装着し、上記製作部材の製作によって、使用者の指紋を記憶出来るようにしたことを特徴とする公衆電話機。

(3) 公衆電話機にあらかじめ特定の電話番号を記憶させておき、その電話番号を使用者が製作した時、特許請求の範囲(1)又は(2)で記憶された情報をただちにこのシステムを統御する所に転送する装置を組み込んだことを特徴とする公衆電話機。

(4) 特許請求の範囲(1)における電子カメラを赤外線カメラとし補助光として、赤外線エレクトロニックフラッシュと同調して、暗い時でも写るようとした事を特徴とした特許請求の範囲(1)の公衆電話機。

## 3. 発明の詳細な説明

昨今、誘拐事件等において公衆電話を利用して犯罪者が被害者にメッセージを送る場合が大変多い。しかし現在、システムでは逆探知に時間を必要とし犯罪者。位置確認をする事が大変困難である。しかし特許請求の範囲に明記した本システムを公衆電話に組込むことにより、ただちに犯罪者の位置を確認出来るだけでなく、その人相又は指紋が得られるので、犯置者が確定が早く出来る

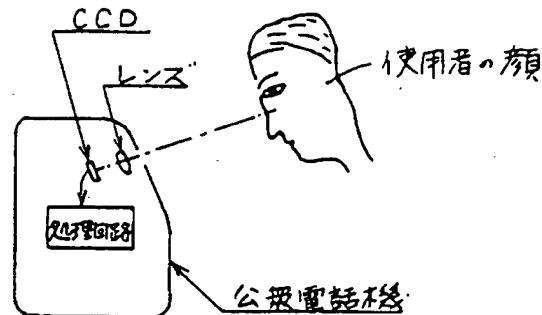
## 図の説明

図1は公衆電話機に装着された電子カメラ  
図2は公衆電話機のナンバー金に装着した指紋検出器

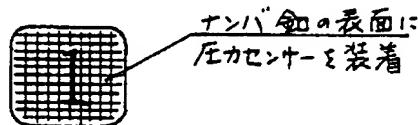
さらに特許請求の範囲(4)のシステムでは色メガネ

をかけたり、マスクをしたりした人の顔を写し出しが出来る。

なお、以上の発明は公衆電話機に応用する。銀行等の自動現金支払機や各種の自動販売機等に応用しが出来る。



第一図



第二図

特許出願人  
堀米あや子

## 手続補正書(方式)

昭和62年8月3日

特許庁長官殿

1. 事件の表示 昭和62年特許願第107077号
2. 発明の名称 使用者記憶装置付公衆電話機
3. 補正をする者

事件との関係 特許出願人

住所 川崎市中原区下小田中925  
氏名 堀米あや子

4. 補正命令・日付(発送日)

昭和62年7月28日

5. 補正の対象

「図面・簡単な説明の項目欄」

6. 補正の内容

「2ページに「図の説明」とあるが  
「4. 図面・簡単な説明」と補正する。

Best Available Copy